

シリーズ「きょうだいの思い」 50

『女医さんの言葉』

何の迷いもなく●●病院に行くと、診察室には女医さんがいた。
茶髪にピアス、明るくハキハキと話す姿は『お医者さんっぽくない』雰囲気だった(笑)
結婚後、妊娠に至るまでの5年の年月の理由を聞かれたので、この紙面の前々号で書いたように、自分の正直な気持ちを話した。

「もし良かったら、弟さんの障がい名を教えてくださいませんか？」と尋ねられた私は「重度の知的障がいを持つ自閉症です」と答えた。

障がいを持つ赤ちゃんが生まれてくる確率は誰にでも同じようであって『まさか自分が』という『他人事』ではないことをわかっているからこそ『もし私の子供も障がいを持って生まれてきたら』と不安な想いを話した。

すると女医さんは、カルテを書くペンを止め、眼を逸らすことなく私を真っ直ぐ見つめて

「妊娠中にわかる障がい、生まれてからわかる障がい、育てていく中でわかる障がい、生んでみないとわからない、育ててみないとわからない、色んな障がいがあります。でも●●さんは、今までお姉さんという立場で弟さんを見てきて、ご両親の力になって助けてきたと思うんです。だから、もし障がいを持つ赤ちゃんだとしても、●●さんなら育てられると思うんです」と、丁寧に言い切った。

私はただただ頷いた。頷きながら、自然と涙が出てしまった。私の不安な心の片隅にある、消えてしまいそうな小さな自負を、初対面の人に見事に言い当てられた。その驚きと、こういう時には返す言葉どころか『声』すら出ないものなのだと、身を持って経験した。

帰り道、車を運転しながら涙が止まらなかった。とても静かな涙だった。
『多くの患者を診てきたからといって、それだけで言えることじゃない。先生の話は、経験者じゃないと言えないはずだ』と確信に近いものがあつた。

「先生も、もしかしたら私と同じ『きょうだい』かも・・・まさかそんな偶然な出逢いなんてあるはずがない。親戚に障がい者がいるのかな・・・でもあの言葉は親戚の立場では言い切れない。やっぱり家族の中に障がい者がいるからこそ言えるものだ」

想像と確信が、心の中でゆっくりゆっくりと渦を巻いていた。

でも、次回の診察で先生に尋ねてみようという気持ちに全くならなかった。不思議なくらいに微塵にも思わなかった。

先生の話の言葉一つ一つは、とても信頼できる医師に出会えたことを証明してるような気がして、私はそれだけで十分だった。

～つづく～

前穂通信

まえほつうしん

発行日	2017年5月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



社内研修の実施。ビジネスマナー研修

4月26日(水)前穂事業所にてeラーニングに伴う社内研修を実施致しました。今回は山本真奈美講師にお越し頂き、「ビジネスマナー研修」を行いました。身だしなみや、挨拶、立居振る舞いなど、楽しく勉強させて頂きました。今後のゲスト接遇をはじめ、様々な対応に大切に役立ててゆきたいと願っております。

ライブプログラム報告

ご好評頂いておりますライブプログラム。現在は定期的に月2回実施しており、毎回ゲストの皆さんが歌ったり踊ったりと大いに盛り上がりしております。皆様のご参加お待ちしております。

